

チャンドラゴーナ会報

Bangladeshの人々と共に歩む宮川医師夫妻を支える会
第2号 (派遣祝福式からダッカ経由チャンドラゴーナへ)

2006年7月1日 No.2

〒811-1111 福岡市早良区脇山 1-15-12 国際多文化共生研究所内
E-mail ; Sumi3Ngo@aol.com TEL 090-5925-1940 FAX: 092-804-263
URL : <http://chandranet.nngo.jp>

首都ダッカでの語学研修から、チャンドラゴーナの病院へ

2006年5月

皆様

早いもので、ダッカでの生活も8ヶ月が過ぎてしまいました。当初3ヶ月の予定でしたが、語学研修等の兼ね合いで今になってしまいました。昨日、最後の授業も終了しました。この度、いよいよ赴任地であるチャンドラゴーナに移動いたします。今は引越し準備に入っています。

皆様には、この間、公私共いろいろ、お世話になりました。本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願いたします。

宮川 眞一

皆様へ、8ヶ月間 見守っていただき本当にありがとうございました。現在は赴任に備えて、引越しの準備と、体調管理を優先した日々を過ごしております。

チャンドラゴーナでの生活がスタートするということで不安もありますが、眞一が赴任地で少しでも良い働きができるよう、ふたりで支えあっていきたいと思っています。

今後ともよろしくお願いたします。

宮川 みちよ



赴任先の CHC 病院

宮川@チャンドラゴーナからのメール(抜粋)

2006年6月20日

「チャンドラに来て、もう1ヶ月が過ぎてしまいました。ダッカの喧騒を離れ、自然に囲まれた場所で、ゆっくりと流れる時を過ごしています。

赴任後、最初の週は、居住予定の家の用意が整っておらず、ゲストルームに仮住まい。内の工事や買い物等アレンジで終わり、次の週から病院デビューしました。少しでも住みやすいようにと、病院のスタッフを始め、看護学生たちも、みんな親切にしてくれていて、とても心地よく暮らし始めています。

ステファン院長から最初の1ヶ月はローテートするのがいいとのことで小児科に2週間、ニコラ医師につきました。彼女はイギリスのパプテストミッションから夫のクリス医師(麻酔科医)と一緒に1年の予定で来ています。その後内科で1週間が過ぎたのですが、まだまだベンガル語は未熟だし、薬も違うし、慣れるまでには、相当かかると思います。今は普通に診療になれるのが先決。4週目に入るところで臨床を一時中断して、現在はプロジェクトのデスクワーク(モバイルチーム(移動診療チーム)の薬の決定・価格などと必需品をにらみながら、診療マニュアル;これが私の責任)に入っています。(プロジェクトの概要は後日ゆっくり書くつもりです。)現状が把握し切れていないので大変ですがディポック医師(インド)が助けてくれています。彼は若いですが、インドの母校関連のプロジェクトの経験もあり、状況の似ているバングラでは、なくてはならない人選だったと思います。来月初めにはモバイルチーム始動の予定です。そんな、こんなで疲れ気味ですが、お蔭様で充実したスタートを切っております。感謝です。近いうちに写真をブログに送るつもりですのでご期待下さい。

宮川 眞一



宮川眞一（みやがわ しんいち）さん

愛媛県宇和島市生まれ。宇和島東高校、関西学院大神学部、大阪 YMCA 予備校、徳島大医学部卒業。福岡徳州会病院勤務。大学時代に「アジア夏期学校」(SIEA)に参加、アジアの現状とその支援に共感。2005年9月よりJOCSワーカーとしてバングラデシュへ赴任。

宮川理世（みやがわ みちよ）さん

長野県飯田市生まれ。13歳より英国に滞在。カナダ・ヨーク大学、英国サセックス大学院卒業後帰国。松本市の医療機関に勤務。宮川眞一さんと結婚し福岡に在住。赴任に伴いバングラデシュへ同行。

現地報告 「自立を考える」

宮川眞一

(前略)

途上国では諸制度の改善等、本来行政が担うべき基本的事柄の多くは、まだまだ未成熟な状態に置かれている。そのために確かに民間・NGOの果たす役割も大きい。NGOのスーパーマーケットとも言われるバングラデシュでは、「何処で働いている?」と聞かれて「日本のNGOだ」と言って理解しないものは一人もいない。それほど、一般に浸透しているNGOだが、その質にはピンからキリまである様だ。もちろんNGOの働きには、素晴らしいものもあり必要不可欠である。担っている役割も大きい。各言う私も日本のNGOの一員である。しかし、その限界性も多々あるのは言うまでもない。

今、幸いなことに、彼らのような意識を持ったバングラ人(ベンガル人以外の国民を含め、こう呼ばせてもらう)が、増えてきたのは確かだと思う。最近の新聞でも、寒さによる路上生活者の死亡を憂い、当局だけでなく国民の意識を憂う記事を目にした。その背景の一つは、経済発展に伴って貧富の格差が大きくなる中、少し余裕の出来た階層の中に問題意識を持つものが増えたこと、又、考えを行動に移していく人が増えて来たことかもしれない。

若い人たちの中にも、このような変化を見て取れる。事実、バングラ人による支援をアピールするストリートチルドレンの援助団体「エクマットラ」などには、趣旨に賛同するバングラ人がボランティアで多く関わっている。その一人で最近この活動に参加し始めたダッカ大学学生のシムル氏は次のように語った。「以前から、このような活動に関わろうと考えていたが、何かピンと来るものがなかった。ある時、エクマットラに出会い『これだ!』と思い参加

している。親も(ある程度の所得がある知識階級のムスリム)自分の本分をきちんとしていれば、この活動については、特にとがめたりはしません、自分は、これに出会えてラッキーでした。」

「自立」は援助の究極の目標であろう。彼らの姿勢・働き中に、より鮮明にその姿を見出すことができる。又「顔の見える援助」とは、よく聞く言葉かもしれない。しかし、ここで紹介した彼らの関わりこそは「顔が見え、声が聞こえ、かつ心の動きが伝わる」援助そして自立への光がいつも見えている働きだと考える。強調したいのは、何らかの生業を持つ者(そのまま向こう岸を歩いていけば、ある意味幸せでいられる者)が、自分の問題意識や信仰・信念を原動力に、自分の時間やお金を提供して関わっていく、しかも取り敢えずの現場は自分の身近な所であるにしても、その先にあるのは、自国の状況を憂うが、諦めずに「自立」のために動こうという意識である。

「ボランティア」という言葉に代えるには何かしら抵抗のある、その意識に、この国の救いを見たように思える。JOCSで働く一人として、こういう人たちと共に歩み協力し、その輪を広げていくことに関わりたいものである。

(JOCS会報「みんなで生きる」ワーカーの手紙より)

バングラデシュの宮川夫妻を訪問

角 正信



2005年年末に、ダッカで語学研修中の宮川夫妻を訪問しました。現地に馴染んで赴任に備えていました。ゲストハウスオーナーのハンナン・康子夫妻の子供ショイコット君とマヤちゃん。

そこで在バングラ大使館の紀谷昌彦参事官と情報交換。彼のHPで「今日は外出先で、チャンドラゴーナ会のSさん、そしてJOCSからチャンドラゴーナの病院に赴任予定のMさんにお会いしました。チャンドラゴーナ会は、「バングラデシュの人々と共に歩むM医師夫妻を支える会」で、既に二百数十名の会員が日本にいらっしゃるそうです。途上国の医療状況改善のため献身的に取り組むご夫妻に、これだけの温かい気持ちが寄せられるのは、まさにMさん、Sさんはじめ関係者のご人徳と会員の善意のたまものだと思います。このような活動が、日本とバングラデシュの架け橋となって、両国間の理解を深めていくように感じました。」と紹介されました。

宮川医師夫妻の派遣祝福式

派遣祝福式は、8月27日日本基督教団福岡中部教会で開催いたしました。当日は、JCMA(キリスト者医科連盟)の年次総会の期間中で総会参加者をはじめ、派遣元のJOC Sの会員・事務局職員、母教会の福岡女学院教会会員の人たち、そして宮川さんに関わる人たちなど100名近くの参加者がいました。

派遣祝福式は、福岡女学院教会白井進牧師の司式で、讃美歌、聖書、式辞のあと「あなたはJOC Sの派遣により、あなたに委ねられた務めに就こうとしています。あなたはこれを主の召しと信じ、この派遣に応じて、忠実にその務めを果たすことを誓いますか」「主なる神と兄弟姉妹の前で、心から誓います」と誓約。JOC S小澤英輔会長が激励の言葉を述べられました。

続いての壮行茶話会では、事前調査のバングラの写真を見ながら現地での仕事を説明。JOC Sバングラデシュ委員会の齊藤委員長と前の職場の福岡徳州会病院の松林副院長から今までのエピソードを交えた激励の挨拶をいただきました。理世さんの、現地服サロワカミュージックがよく似合い注目を集めました。

その後交流会では、フィリピンのレイテ島への国際協力取り組んでいるDr.マジックこと伊藤実喜医師にショーの後、挨拶。出発直前には、「ペシャワール会」の設立に関わった福岡市国際交流協会の辻睦雄さんや、「バングラと手をつなぐ会」の二ノ坂保喜医師を紹介し情報交換しました。



白井進牧師司式による派遣祝福式にて誓約



JOC S 川口恭子主事と前ワーカー岩本直美看護師



JCMA総会では、JOC Sの創設者の一人である聖路加病院日野原重明医師が「21世紀に描くビジョンとその実践へのチャレンジ」と題して基調講演されました。「よきサマリア人」のように愛の力を信じ、平和へのメッセージを实践する国際協力の重要性も述べられました。講演後赴任挨拶、激励を受けました。

***** バングラデシュとは *****

インドの東隣、ホッダ河(ガンジス河)下流、亜熱帯モンスーン地帯。古くはベンガル人による王国も存在し、長年インド・ムガル帝国に支配され、19世紀後半からイギリス植民地に。1947年英領インドは、インドとイスラム教国のパキスタンに独立。ベンガル地方は、東パキスタンとなる。1950年代に始まった民族運動を経て、1971年にバングラデシュ人民共和国として独立。国連で定める最貧国のひとつで、貧困撲滅、保健衛生・教育などの開発が求められています。

人口 約1億4千万人 (日本 約1億2700万人)
面積 約14.4万km² (日本の本州程度, 日本37.8万km²)
人口密度 1,019人/km² (日本337人同比)
言語 ベンガル語
宗教 イスラム教 86.6% ヒンドゥー教 12%
経済 ジュート、米、茶を中心とする農業国。
 財政支出の半分近くが外国からの援助。
 最近は縫製品、革製品、冷凍魚類の輸出増化。
GNP 400米ドル/一人年 (日本33,550米ドル同比)
平均寿命 62歳 (日本82歳)
5歳未満児死亡率 69人(出生1000対)
 (日本4人同比)
医師数 2人(人口1万人対) (日本19人同比)
識字率 男49% 女30% (日本男女99%以上)
 (出展:「ユニセフ世界子供白書2004」他)

チャンドラゴーナ (Chandragohna)



「チャンドラゴーナ会」

は宮川眞一医師・理世夫妻のバングラデシュ南東部チャンドラゴーナでの、地域医療活動を推進するために必要な支援活動とその広報、募金活動等を行います。

二人はJOCS(日本キリスト教海外医療協力会)の派遣ですが、本会はそれを側面的に「支える会」として、運営されるものです。

本会の活動の趣旨・目的をご理解いただければ、誰でも入会できます。現地の活動を随時お知らせする会報等をお送りし、報告会・学習会など行います。会員の情報共有のためのメーリングリスト(ML)「Chandra-net」を開設しています。

参加希望者は owner-chandra-net@freeml.com へ

「チャンドラゴーナ会」の目的は、

- 1) 宮川夫妻の働きを覚え、祈りによって支え
- 2) その働きを通じて現地の人々への理解を深め
- 3) その支援を通じて、国際医療協力に連なることです。会の運営は、ボランティアの自主運営で、事務局等を設置し数名の役員をおき、運営にかかる経費は支援会会員の会費・寄付等で行います。

どうか会の目的、趣旨を理解していただき、より多くの人たちの支援・ご協力をお願いいたします。

各地区連絡事務所

関西連絡所

〒657-0031 兵庫県神戸市灘区大和町 1-2-11
日本基督教団神和教会 気付 森哲牧師
TEL :078-851-6671 YRS04137@nifty.com

愛媛連絡所

〒791-0245 愛媛県松山市南梅本町甲 58
医療法人中川病院 中川泰範理事長、容子気付
TEL 089-976-7811 (代) FAX 089-976-7979
youkonak@juno.ocn.ne.jp

北海道連絡所

〒083-0046 北海道中川郡池田町字東台 586
TEL 01557-2-5396 帯広教会 森場さとし気付
Mori-ba@cyber.ocn.ne.jp

派遣元:

(社団)日本キリスト教海外医療協力(JOCS)

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-33
TEL 03-3208-2416 FAX 03-3232-6922
<http://www.jocs.or.jp> info@jocs.or.jp

現地病院住所 (2006年5月から)

チャンドラゴーナ・キリスト教病院

Christian Hospital Chandraghona (CHC)
Chandraghona-4531, Rangamiti Hill Tracts,
Bangladesh
Tel: 880-31-635044/Ext.-11
Mobile: 01713124517
E-mail: miyapyon@mac.com

入会案内

活動内容

現地活動支援、報告会・学習会等開催、会員募集、会報作成・印刷・発送作業・IT関連管理等

年会費(会計年度 7月1日~翌年6月30日)

原則派遣期間3年間(以降継続可能性有)

- ・会 員 3,000 円
- ・賛助会員 一口 1,000 円
- ・学生会員 一口 1,000 円
- ・維持会員・団体会員 一口 10,000 円

会費・ご寄付の送金方法

1) 郵便払込 郵便振替口座 01750-7-77534

加入者名: チャンドラゴーナ会

2) 銀行振込口座

東京三菱銀行福岡支店 普通預金 2121511

チャンドラゴーナ会代表角正信(スミ マサノブ)

会費以外の寄付・献品も随時お受けします。

本会では、JOCSが長年行っています「使用済切手」収集のほか、事務的活動支援として会報印刷用紙、書き損じのハガキ・未使用切手のご寄付等も併せてお願いします。

チャンドラゴーナ会事務局より

昨年7月に宮川眞一さん、理世さんのバングラデシュへの国際協力の働きに賛同して、支える会「チャンドラゴーナ会・バングラデシュの人々と共に歩む宮川医師夫妻を支える会」を発足させて1年が過ぎました。宮川夫妻の関係の家族、友人、同窓会、先輩、医療関係、キリスト教会、NGO等の個人・団体へ支援・協力を呼びかけました。この間多くの人たちから激励と支援を受け、現在では、北海道から鹿児島まで300人を越える人たちが、入会、寄付していただき心より感謝いたします。

入会者名、会計報告等は、個人情報保護の関係もあり後日別紙にて個別にご報告させていただきます。

二人とも多くの人たちのお支えのなか、皆さんの期待に答えるべく、日々励んでいます。地道な保健医療活動ですから、すぐに目に見える結果が現れるものではなく、現地の人たちの健康的な生活が送れるような触媒としての役割が大きいようです。眞一さんの青年時代から夢を追い続ける持続的な姿を見守っていた者として、事務局を仰せつかりましたが、思いがけない多くの人たちのご支援で、手間取ることもあり、礼を失する事があればお許しください。

今後ともよろしく願いいたします。

2006.7.1

角 正信

編集・発行: チャンドラゴーナ会事務局

「バングラデシュの人々と共に歩む宮川医師夫妻を支える会」
世話人代表 角 正信(すみまさのぶ)

〒811-1111 福岡市早良区脇山 1-15-12

国際多文化共生研究所内

URL: <http://chandranet.ngpo.jp>

E-mail: Sumi3Ngo@aol.com

TEL 090-5925-1940 FAX: 092-804-2632

